

2025/26 シーズン 神奈川県ユース育成選手方針及び  
K1・K2、JOC 選考基準について

2025 年 11 月 29 日  
公益財団法人神奈川県スキー連盟  
競技本部

神奈川県スキー連盟は、「心豊かで、世界に羽ばたく選手の育成」を目指しております。世界を舞台に活躍できる選手を育てると同時に、スポーツを通して立派な人間としても成長することが大切です。また、競技を通じて学んだ「スポーツマンシップ」は、社会の中でも忘れてはならない重要な心構えです。

これらの活動は、神奈川県の助成金（県民の皆さまの税金）によって支えられています。そのため、私たちはこの支援に深く感謝するとともに、公的資金を活用している団体として、社会的責任を自覚し、より一層の規律と誠実さをもって活動してまいります。

皆さんも十分ご承知のとおり、競技やキャンプの運営には多くの関係者のご協力によって成り立っています。その支えに感謝し、関係者の方々にご迷惑をおかけしないよう、選手の皆さんには行動の規律をしっかり守っていただきたいと思います。

私たち指導者はもちろんのこと、保護者の皆さまにも、下記の行動規範について日頃からご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 挨拶は大きな声ではっきりとしましょう

宿の人、リフト係りの人、他のチームのコーチ及び選手には大きな声で挨拶をすること

2. 休憩時間のスキーの脱ぎ捨てはしない

必ずスキー置き場にそろえて置くこと、特に大会期間中のスタート、ゴールエリアでのスキーは一般の人に迷惑にならないように決められた位置に置くこと。

3. 宿泊施設では

朝食、夕食は残さず食べる。部屋は常に整理整頓に心がけ、最終日は布団を綺麗にたたみ、ゴミは所定のごみ箱に。廊下を走ったりしない。消灯時間を厳守すること。

4. 学年を尊重した名前の呼び方、言葉遣い、配慮を留意してください。上級生は率先、指示だし、下級生は素早く行動、指示受け動く。

5. スポーツマンシップを大切にする

勝敗にかかわらず、常に相手や仲間を尊重し、正々堂々と競技します。

ルールを守り、公正・誠実な行動を貫きます。

\* 育成選手は他の選手及び関係者は注目しているので常に模範となる行動をするように心がけてください。

## ■2025/26 シーズンの方針

2024-2025 シーズンのユース世代は JOC ジュニアオリンピックでの各クラス優勝者・入賞者も輩出できたシーズンであり、ここ数年県内のユース選手のレベルが上がっています。

今シーズンも引き続き強化体制を維持し、スキー連盟に出来るサポート体制でユース強化事業を行っていきます。

### ① コーチングスタッフ体制

県スキー連盟 競技本部理事	平賀 淳人（全体統括責任者 事務 マネージャー）
県スキー連盟 アルペン委員長	中田 圭（アドバイザー 県連コーチ）
県スキー連盟 専任コーチ	金子 信太郎（アドバイザー 雪上専任コーチ）
県スキー連盟 専任コーチ	今野 明理（雪上、フィジカル専任コーチ）
県スポ協会 専任コーチ	湯浅 直樹（雪上専任コーチ）
県スポ協会 専任コーチ	大瀧 詞久（雪上専任コーチ）
県スポ協会 専任コーチ	大野 高峰（指導 フィジカル専任コーチ）

### ② 練習環境の提供

- ・シーズン前後強化合宿（雪上トレーニング、陸トレ、座学他）
- ・全国中学大会及びジュニアオリンピック直前合宿を実施予定
- ・常設練習環境の紹介（Yuasa snow Academy）高峰マウンテンパーク以外にスノーパーク尾瀬戸倉でも常設設置予定。
- ・フィジカル強化（体力強化、ボディバランス、スキー競技での体の使い方を専門的指導）

### [12 月合宿]

- ・南関東合同キャンプ A

12 月 6 日(土)～12 月 7 日(日)

場所：スノーパークイエティ

既に詳細は県連 HP にて周知済の内容となります。

### [3 月合宿]

- ・県連 JOC ジュニアオリンピック直前強化キャンプ

3 月 23 日(月)～3 月 27 日(金)

場所：ぬかびらスキー場 対象者：SAK 育成選手の JOC 出場者

### [4 月合宿]

- ・南関東合同合宿 B 及び C

4 月 18 日(土)～4 月 19 日(日)（予定期間）

4 月 25 日(土)～4 月 26 日(日)（予定期間）

場所：尾瀬岩倉

[6月～10月フィジカル]

月1回のフィジカルトレーニングを実施します。

※パフォーマンステスト（体力数値の可視化）も実施予定。

6月と10月に1回の測定を行い、選手自身の今の実力と夏強化後の変化を数値で確認できます。

#### ■TCMでのボードコントロールについて

全国中学校大会・ジュニアオリンピック以外のユースレースのボードコントロールは原則各自の責任でお願いします。ボードコントロールができない場合は、

① まず選手間の依頼先を探す。

② TCMに出席する県連コーチやチームコーチへ相談する。

としてください。コーチはできるだけはフォロー、サポートはする様に致します。また、オンラインTCMの場合は、各選手は可能な限り、参加をお願いします。

#### ■派遣依頼書の発行ルール

以下の事業に限って希望者へ各事業の10日前までに希望申請を平賀まで直接お願い致します。

2月の全国中学大会

3月のジュニアオリンピック

#### ■移動手段について

各事業への現地までの移動手段については選手保護者間での乗り合い等で対応をお願い致します。原則コーチスタッフへの依頼はお控えください。（期間中の宿～雪上の送迎等は除く）

## ■ジュニアオリンピック選考基準

### ○選考対象

K 1 : S A J 会員登録を済ませている事が前提条件 (※申込み 11/30 まで)

K 2 : S A J 競技者管理登録をされており、神奈川県に在住または在学者とする。

例) 全中予選を他県で出場した場合は、神奈川県推薦選手の対象としない。

※K 2 は南関東ブロック枠のみの選考となります。詳細については後記に示す。

### ○選考対象レース

K 1

『北関東ユース戸倉大会 GS SL 』2026 年 1 月 23 日～25 日

『南関東ブロックユース野沢温泉大会 GS SL 』2026 年 2 月 6 日～8 日

計 GS 2 レース SL 2 レース 計 4 レース

### ○選考基準

#### 【K1 選手】

対象レースでのワールドカップポイント方式。全大会種目別合算ポイントで選手を選考する。

※ポイント付与の表は次ページ参照。

例 1) A 選手 GS1 位 100P SL5 位 45P B 選手 GS2 位 80P SL2 位 80P

A 選手  $100P + 45P = 145P$  B 選手  $80P + 80P = 160P$

したがって、B 選手が選考 1 位、A 選手が 2 位となる。

例 2)

大会公式リザルト			加算点
順位	氏名	所属	
1	神奈川 一郎	神奈川県	→100 点
2	群馬 一郎	群馬県	
3	東京 一郎	東京都	
4	東京 二郎	東京都	
5	神奈川 二郎	神奈川県	→45 点
⋮			
30	神奈川 三郎	神奈川県	→1 点

ポイント計算方法は各選考大会に対して県内選手のみを抜粋した順位加点式ではなく、大会公式リザルト順位での加点式となる。

選考内で同ポイントの場合対象レースのレースポイントの合計の少ない方を優先する。

大会中止等で選考ポイントが付与ができない場合は、競技本部長推薦で選考する。

選考後に何らかの理由により、辞退した場合の繰り上げ選考については現地大会事務局の許可を得て期日までに変更が可能な場合、繰り上げ選考をおこなう。

## 【K2 選手】

### 1. 選考方針・対象選手

- ・「南関東代表選手」としての団体行動を自覚していただき、ジュニアオリンピックでの活躍が期待できる選手を選考します。
- ・下記の予選会までに東京都、神奈川県、千葉県各連盟より SAJ 競技者登録をされている選手とします。
- ・各ブロックに割り当てられたエントリー数内で、各ブロックで選抜された競技者（※）とします。  
※ブロック推薦枠数は SAJ ポイントリスト No. 7（12 月 2 発行）での競技者登録数を基に算出されます。
- ・有資格者においても、ブロック選考（下記）レースに出場した選手とします。
- ・「南関東選手団として」合宿を行います、交通、宿泊、事前トレーニング等は、決められた内容にて参加できる選手とします。※詳細は選考者に後日お知らせします。

### 2. 選考の優先順位

#### ① 自力枠（有資格条件）

- 1) 前年度本大会 K2 カテゴリーにおいて各種目 10 位以内に入賞した選手
- 2) 当該シーズンの全国中学校スキー大会各種目 10 位以内入賞者
- 3) 2008 年生まれで当該シーズンの全国高校スキー大会各種目 10 位以内入賞者
- 4) 当該シーズンの全日本ジュニアスキー選手権(SG)で 10 位以内入賞者
- 5) 当該シーズンの強化指定 D の選手
- 6) 前年度大会 K1 カテゴリーにおいて各種目 5 位以内入賞者（中学校 1 年生が対象）

#### ② ブロック推薦枠の決定方法

- ①以外の選手を対象に、南関東ブロックの推薦枠を、下記の選考方法にて選考をする。  
※ブロック推薦枠は SAJ ポイントリスト No. 7（12 月 2 日発行）での競技者登録数を基に算出。

### 3. 南関東ブロック推薦枠選考レース・選考方法

各ブロックに割り当てられたエントリー数内で、各ブロックで選抜された選手

『南関東ブロックユース野沢温泉大会（大回転および回転）を選考レースとする。（2 種目同一選手）』

- ・南関東ブロックユース野沢温泉大会で南関東ブロック選手の内部順位で上位より選考する。上位 30 位にジュニオリポイント付与する。

- ・ジュニオリポイントは、ワールドカップ方式のポイントを付与する。
- ・大回転競技、回転競技、それぞれのポイント加算で選考する。
- ・選考枠内で同ポイント同順位の場合は、南関東ブロックユース野沢温泉大会開催予定日時点でのSAJポイント（出場選手の内、GSまたはSLのポイントランキング上位を採用する、ランキングが同順位の場合はGS優先）を選考する。
- ・選考後、辞退者が出た場合、期日内（※後日連絡）であれば繰り上げ推薦をする。
- ・大会中止等でジュニオリポイント付与ができない場合の選考方法について  
SAJポイントリスト No. 14（2月24日発行）での上位者とする、その場合は種目別での選考となる。
- ・高校1年生の早生まれの選手は2025年度全国高等学校スキー大会本戦において **GS、SL** 両種目において下記の要件を満たした選手を推薦枠内にてプロテクトする。

種目	男子	女子
GS	100位以内	90位以内
SL	80位以内	70位以内

#### 4. 有資格者の予選会への参加義務について

JOC ジュニアオリンピックカップ 2026 実施概要に記載がありますが、本年度よりブロック強化を目的に「本大会に出場する選手は所属するブロックの予選に出場しなければならない」としています。

予選会へは出場をお願いいたします。尚、出場権利は変わりません。

個別参加有資格者がブロック予選の欠場を認めるケース ※下記概要抜粋

① SAJ 主催の強化合宿および遠征に参加の場合、加盟団体が派遣するレースに出場の場合

② 怪我などにより出場できない場合でアルペン委員会が認めた場合

選手 申請書と診断書を加盟団体強化担当者に提出



加盟団体強化担当者 ブロック担当強化委員に提出



ブロック担当者 アルペン委員会強化小委員会に提出



強化小委員会 確認の後 アルペン委員長に報告・承認



強化小委員会からブロック担当者に報告

※ブロックレース開催後の事後承諾は認めない。

その他、詳細は JOC ジュニアオリンピックカップ 2026 実施概要をご確認ください。

## W.C.ポイント方式とは？

選手名	レース 順位	SAT 順位	ジュニアオリ ポイント
		1	100
		2	80
		3	60
		4	50
		5	45
		6	40
		7	36
		8	32
		9	29
		10	26
		11	24
		12	22
		13	20
		14	18
		15	16
		16	15
		17	14
		...	...
		27	4
		28	3
		29	2
		30	1
		31	0



### ■ ルールの周知

#### ① フッ素系ワックスの使用禁止

2022/2023 シーズンより、FIS 及び SAJ は、FIS、SAJ 公認大会において、フッ素成分を含むすべてのワックスの使用を禁止としました。神奈川県スキー連盟もこれに順じ、先シーズンより全てのレースで使用禁止となります。

#### ② スタート数の制限

- ・ 中学校 3 年生・高校 1 年生早生まれは制限なしとする。
- ・ 技術系 (GS/SL) 合計、中学校 1・2 年生は 12 レース以内とする。
- ・ 「SAJ ポイントレースにおいて公式成績表が発行され、1 本目の DNS 以外で名前が掲載されている場合」スタートしたものとする。DNQ(予選落ち)、DNF、DQ、2 本目の DNS もスタートとみなされる。
- ・ 12 レース以内の項目に違反した場合は、当該選手の違反したレースでの取得ポイントを無効とする。但し、違反を知らず参加する等の悪質な違反者に対しては次年度 1 月 31 日まで SAJ 公認大会のエントリーを禁止する。
- ・ 全国中学校スキー大会、JOC ジュニアオリンピックカップのスタートはこの制限に含めない。
- ・ レース母数が少ないため、K1 については特に制限を設けないが、K1 は練習第一で色々な経験を積む時期です。推奨は関東ユースレースシリーズ (戸倉、野沢)、南関東ブロックユース (戸倉) です。

#### ③ マテリアルルールの確認

使用可能スキー早見表 (数値は最小値とする。)

種目	性別	数値	FIS Level3以上	FIS Level2以下 SAJ (除ユース)	SAJ (ユース)				SAJ (マスターズ)
					K2 (FIS U16と同等)		K1 (FIS U14と同等)		
						SAJ特別ルール		SAJ特別ルール	
DH	女子	長さ	210cm	205cm	-	-	-	-	
		ラディウス	50m	50m	-	-	-	-	
	男子	長さ	218cm	213cm	-	-	-	-	
		ラディウス	50m	50m	-	-	-	-	
SG	女子	長さ	205cm	200cm	183cm	175cm	-	180cm*2	
		ラディウス	40m	40m	30m	27m	-	-	
	男子	長さ	210cm	205cm	183cm	175cm	-	185cm*2	
		ラディウス	45m	45m	30m	27m	-	-	
GS	女子	長さ	188cm	183cm	188cm以下	-	188cm以下	130cm	175cm
		ラディウス	30m	30m	17m	-	17m	14m	-
	男子	長さ	193cm	188cm	188cm以下	-	188cm以下	130cm	180cm
		ラディウス	30m	30m	17m	-	17m	14m	-
SL	女子	長さ	155cm	155cm	130cm	-	130cm	-	-
	男子	長さ	165cm	165cm*1	130cm	-	130cm	-	-

\*1: U18 1年目のみ、-10cmの許容差を認める。

\*2: 女子55歳以上、男子65歳以上は長さに関しては規定しない。

\*スキー長はスキー板に記載されている数値で判断する。

\*JOCジュニアオリンピックカップK1カテゴリーは上記のスキーを利用すること。

・ 中学 3 年生で国体本選を目指している選手は予選会から SAJ シニア区分のマテリアルルールになるので注意のこと。(板、レーシングスーツ等)

#### ④ 【全種目共通】 ICR614. 2. 3 の改正 競技者が停止した後の継続禁止について

<p>614.2.3 Interdiction to Continue after a competitor stops</p> <p>If <u>a competitor's skis</u> come to a complete stop <del>(e.g. after a fall)</del>, they must no longer continue through previous or further gates.</p> <p><u>If a competitor continues without their skis coming to a complete stop, they must not interfere with the run of the next competitor or be passed by the next competitor.</u></p>	<p>614. 2. 3 競技者が停止した後に継続することの禁止</p> <p>もし競技者の<u>スキー</u>が完全に停止した場合 <del>(例：転倒後)</del>、その競技者は、前の旗門やその後の旗門を通過してはならない。</p> <p><u>もし競技者がスキーを完全に停止させることなく続ける場合は、次の競技者の滑走を妨害したり、次の競技者に追い抜かれたりしてはならない。</u></p>
--	---

今回の、『停止』に関わるルール改正について、FIS では新たに青文字で示す文言等を追加しました。今までは、「競技者が完全に停止した場合」という、少し曖昧な表現でしたが『スキーが完全に停止した場合』と完全停止に関する見解がハッキリ示されたと言えます。今までは、競技者の身体が動いていれば、という風に受け取れたものが、身体は動いていたとしてもスキーが完全に停止した場合は継続できないことが明確になりました。

この改正を受け、国内で開催される全ての FIS 及び SAJ 公認大会の全種目において、競技者のスキーが完全に停止した場合は、競技を継続することはできません。



## 【通過の定義】

### 《シングルポールスラローム：ICR804.3》

アウトサイドポールがない場合は、スラロームの通常のレースラインに沿って、ターニングポールからターニングポールまでの架空の線を越え、両足とスキーの先端がターニングポールの同じ側を通過しなければならない。もし 競技者が、ポールをまたぐなどの失敗をしていないにもかかわらず、片方のスキーを失った場合、残ったスキーの先端と両足が、両方の条件を満たさなければならない。外側のポールがある場合（最初と最後のゲート、ディレイドゲート、コンビネーション（ヘアピン、バーチカル）は、第 661.4.1 条が有効である。

### 《シングルポールジャイアントスラローム：ICR904.3》

アウトサイドポールが存在しない場合、ターニングポール間の想像上のラインを横切る通常のジャイアントスラロームのレースラインを追うように、競技者の両足とスキーの両先端がターニングポールを同じ側で通過する。もし、競技者が、スキーが外れ、違反をしなかった場合（例：ポールをまたがない）、残りのスキーの先端と両足は、両方の必要事項を満たさなければならない。アウトサイドポールが存在する旗門（第一および最終旗門、ディレイゲート）には、ICR 661.4.1 条が適用される。

### 《全種目共通：ICR661.4.1》

競技者の両スキーの先端と両足が旗門線を横切ったとき、旗門を通過したことになる。例えば、スラロームポールをまたぐといった不通過となる行為をせずに、競技者の片方のスキーが外れてしまった場合は、もう片方のスキーの先端と両足が旗門線を通過しなければならない。

次ページにスラローム競技における「**競技者のスキーが完全に停止した場合**」と旗門線の通過に対する分かり易い図解を示します。

※その他大会日程、ルール詳細、JOC要項などはSAJから発信されている今シーズンのアルペンハンドブックをスマホ等に保存してあると便利ですのでご参照ください。

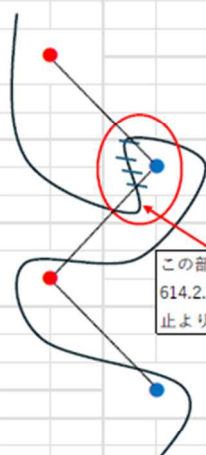
[https://www.ski-japan.or.jp/wp-content/uploads/2025-2026\\_Alpine\\_HandBook.pdf](https://www.ski-japan.or.jp/wp-content/uploads/2025-2026_Alpine_HandBook.pdf)

アルペンスラローム競技における競技者が止まった後の継続禁止について【図解】

旗門線

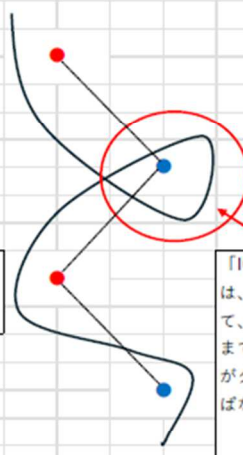
《失格となる例：×》

例1



この部分で登坂した場合は、ICR 614.2.3 競技者が止まった後の継続禁止より失格。

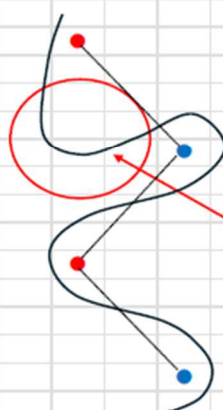
例2



「ICR 804.3 アウトサイドボールがない場合は、スラロームの通常のレースラインに沿って、ターニングボールからターニングボールまでの架空の線を越え、両足とスキーの先端がターニングボールの同じ側を通過しなければならない。」に違反したことにより失格。

《失格とならない例：○》

例3



ターンはあふれてしまったが、停止することなく、通常のレースラインに沿って、ターニングボールからターニングボールまでの架空の線を越え、両足とスキーの先端がターニングボールの同じ側を通過した。